

表 3.1-1：我が国の基礎生活分野への支援と ODA 中期政策との整合性（基本的な考え方、重点課題、地域別援助のあり方）

	整合性の高さ
I. 基本的な考え方	
1.DAC「新開発戦略」に掲げられた目標 ¹¹ を念頭に置き、ODA に取り組む。	ボリビア国民の生活の質の向上を目指した点で整合性が高い。
4.人間中心の開発及び人間の安全保障という概念の強調。	ボリビア国民の生活の質の向上を目指した点で整合性が高い。
5.我が国の「顔が見える」援助、国民参加型の協力の推進、民間を含めた我が国の発展経験や技術、ノウハウの一層活用を図る。	案件実施による受益者数が 2001 年のボリビアの 28%を占めており、また日本病院が最優秀病院に選ばれたことは新聞のトップ記事としてとりあげられたことから、ボリビア国民は日本の基礎生活分野協力についてよく理解しており、ボリビアでは我が国の「顔が見える援助」が実現している。沖縄移民が多いサンタクルス県ワルネス地区では、戦後沖縄県で実施された公衆衛生向上のノウハウを活用する形式で、技術移転を行った。
II. 重点課題 （2.～7.については関連性が薄いため省略。）	
1.貧困対策や社会開発分野への支援	<u>基礎教育</u> 評価対象期間の我が国の支援は校舎建設、教育用機材整備の様なハード面の協力が主であった。2000 年度からは教育カリキュラムや教材開発関連の専門家、JOCV 隊員が小学校教師として派遣された。 <u>保健医療</u> ボリビアの保健医療体制の中核となる医療施設へのハード・ソフト両面での支援を行うことが目指され、特に、サンタクルス医療供給計画ではプロジェクト方式技術協力によるハード・ソフトの両面の支援が行われた。一方、評価対象時期の案件ではプライマリ・ヘルス・ケアが重視されておらず、二次・三次レベル医療体制の強化への協力を集中した。 <u>女性支援（WID）/ジェンダー</u> ラパス母子病院機材整備計画、サンタクルス地方公衆衛生向上計画など、女性（母親）を裨益対象とした案件が実施された。

¹¹ 人々の生活の質の向上を開発目的として設定し、2015 年までに貧困人口の割合を半減させることなどを社会開発上の具体的目標

III. 地域別援助のあり方	
6.中南米	評価対象時期に実施された基礎生活分野協力では、中南米地域での重点分野と定めている、基礎教育・保健医療の基礎インフラの整備など、貧困問題緩和のための支援が行われた。伝統的に我が国と中南米地域との架け橋になっている多数の日本人移住者・日系人が、各国の発展に重要な役割を果たしていることから、彼らの生活や事業を支援する案件（サンタクルス地方公衆衛生向上計画など）を積極的に実施した。
IV. 援手法法、V. 実施運用上の留意点については、本報告書 3.2.2 基礎生活分野協力の実施過程 表 3.2-5 を参照。	